

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 3 区分
【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2004-110483 (P2004-110483A)
【公開日】平成 16 年 4 月 8 日 (2004.4.8)
【年通号数】公開・登録公報 2004-014
【出願番号】特願 2002-272921 (P2002-272921)
【国際特許分類第 7 版】
G 0 6 F 17/21
【F I】
G 0 6 F 17/21 5 5 0 J

【手続補正書】
【提出日】平成 17 年 7 月 13 日 (2005.7.13)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】文書診断プログラム、文書診断方法及び抽出プログラム
【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

コンピュータに、所定の識別子により記載内容が区分された文書の校正を行わせる文書診断プログラムにおいて、

前記コンピュータに、

前記文書の記載内容を示す文字データを前記識別子と共に取り込む取り込みステップと

、
前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から所定の既出指示語を検出する検出ステップと、

該既出指示語より以前の記載内容の文字データ中に、該既出指示語で修飾された文字列と一致する文字列が存在するか否かを検索する検索ステップと、
を実行させることを特徴とする文書診断プログラム。

【請求項 2】

コンピュータに、特許法によって予め書式が定められた特許庁に提出する文書であって、所定の識別子により記載内容が区分された明細書の校正を行わせる文書診断プログラムにおいて、

前記コンピュータに、

前記明細書の特許請求の範囲の記載内容を示す文字データを請求項を表す所定の識別子と共に取り込む取り込みステップと、

前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から所定の判定文字列を抽出する抽出ステップと、

該文字データ中から所定の既出指示語を検出する検出ステップと、

前記判定文字列に基づいて、前記識別子と従属関係を有する他の識別子を判別する判別ステップと、

前記判別ステップで判別した他の識別子により区分された記載内容をも前記既出指示語より以前の記載内容とした上で、該既出指示語より以前の記載内容の文字データ中に、該既出指示語で修飾された文字列と一致する文字列が存在するか否かを検索する検索ステップと、
を実行させることを特徴とする文書診断プログラム。

【請求項 3】

前記コンピュータに、
前記検索ステップで検索した結果を表示手段に表示する表示ステップを実行させることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の文書診断プログラム。

【請求項 4】

コンピュータが、所定の識別子により記載内容が区分された文書の校正を行う文書診断方法において、

前記コンピュータが、

前記文書の記載内容を示す文字データを前記識別子と共に取り込む取り込みステップと

、

前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から所定の既出指示語を検出する検出ステップと、

該既出指示語より以前の記載内容の文字データ中に、該既出指示語で修飾された文字列と一致する文字列が存在するか否かを検索する検索ステップと、
を実行することを特徴とする文書診断方法。

【請求項 5】

コンピュータが、特許法によって予め書式が定められた特許庁に提出する文書であって、所定の識別子により記載内容が区分された明細書の校正を行う文書診断方法において、

前記コンピュータが、

前記明細書の特許請求の範囲の記載内容を示す文字データを請求項を示す所定の識別子と共に取り込む取り込みステップと、

前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から予め決められた判定文字列を抽出する抽出ステップと、

該文字データ中から所定の既出指示語を検出する検出ステップと、

前記判定文字列に基づいて、前記識別子と従属関係を有する他の識別子を判別する判別ステップと、

前記判別ステップで判別した他の識別子により区分された記載内容をも前記既出指示語より以前の記載内容とした上で、該既出指示語より以前の記載内容の文字データ中に、該既出指示語で修飾された文字列と一致する文字列が存在するか否かを検索する検索ステップと、

を実行することを特徴とする文書診断方法。

【請求項 6】

前記コンピュータが、

前記検索ステップで検索した結果を表示手段に表示する表示ステップを実行することを特徴とする請求項 4 又は 5 に記載の文書診断方法。

【請求項 7】

コンピュータに、

所定の識別子により記載内容が区分された文書の記載内容を示す文字データを前記識別子と共に取り込む取り込みステップと、

前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から所定の既出指示語を検出する検出ステップと、

前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から検出した既出指示語で修飾された文字列を抽出する文字列抽出ステップと、

を実行させることを特徴とする抽出プログラム。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば特許出願に係る明細書等のように識別子により記載内容が区分された文書における記載内容の適否をコンピュータに診断させるための文書診断プログラム、該プログラムに基づきコンピュータが行う文書診断方法及び抽出プログラムに関するものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

そこで、本発明の目的は、識別子により記載内容が区分された文書のチェック作業を軽減でき、しかもチェック洩れを解消できる文書診断プログラム、文書診断方法及び抽出プログラムを提供することにある。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

請求項6の発明は、前記コンピュータが、前記検索ステップで検索した結果を表示手段に表示する表示ステップを実行する。

請求項7の発明では、コンピュータに、所定の識別子により記載内容が区分された文書の記載内容を示す文字データを前記識別子と共に取り込む取り込みステップと、前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から所定の既出指示語を検出する検出ステップと、前記識別子により区分された記載内容の文字データ中から検出した既出指示語で修飾された文字列を抽出する文字列抽出ステップと、を実行させる。

（作用）

請求項1又は4に記載の発明によれば、コンピュータが、所定の識別子により記載内容が区分された文書の文字データを取り込み、適切に既出指示語が使用されているか否か判断する。このため、作成者は、多大な注意力を払うことなく、かつ多大な時間をかけることなくチェックを確実にできる。